

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 26 日

【評価実施概要】

事業所番号	3873100162		
法人名	医療法人 北辰会		
事業所名	グループホーム 小松の里		
所在地	西条市小松町妙口甲1番地1 (電話) 0898-76-3838		
管理者	津島 美由紀		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 21 年 1 月 22 日	評価確定日	平成 21 年 2 月 27 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 12 月 25 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 3 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤 23 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	24 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有()円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,350 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 12 月 25 日事業所記入)

利用者人数	27 名	男性	4 名	女性	23 名
要介護 1	4 名		要介護 2	7 名	
要介護 3	9 名		要介護 4	6 名	
要介護 5	1 名		要支援 2	名	
年齢	平均 85.6 歳	最低 75 歳	最高	94 歳	

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山を背にした小高い場所にある、二階建ての落ち着いた和風のホームである。広々とした裏庭のすみには家庭菜園もある。玄關ホール、共用部分、居室ともに十分な広さがあり、自由な雰囲気を感じられる。利用者はそれぞれ思い思いに過ごしており、来訪者を笑顔で迎えてくれる。ユニット毎に多彩な行事を取り入れ、生活を楽しんでいる。母体の医療機関から毎週往診があり、健康管理に努めている。「仕事が楽しいです」と明るく話す職員の言葉から、ケアの質の高さを感じる。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
運営推進会議において、評価結果を議題として検討している。栄養摂取に関しては、栄養士によるチェックを受けてアドバイスをもらうようにしている。行事を利用して家族会を開き、意見を出してもらうように配慮している。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
良質なケアサービスの水準を確保しながら、更なる向上を図ろうという思いで、全職員が自己評価に取り組み、振り返りを行うことで新たな気づきがあり、それらをサービスに活かしている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
運営推進会議において評価結果を議題として取り上げ、話し合いを行い、改善できることから具体的に取組んでいる。利用者の様子を理解してもらうために、クリスマス会などホーム行事に参加してもらって成果を得ている。日程調整が難しく欠席される方が多く、地域からの参加が少なくなっている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
意見箱の設置、相談窓口の紹介はもちろんのこと、少なくとも月1回は家族と話し合う機会を持つようという意図もあり、利用料を現金集金としている。生活の様子や健康状態については、個別に担当者による手紙を添えて毎月報告している。家族を招いての行事であるクリスマス会や敬老会を利用して家族会を開き、オープンな雰囲気の中で意見が出しやすいよう工夫している。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
利用者が地域の活動に参加する機会が少ないため、ホームが企画して地域の方に参加してもらおう形で交流を深められるよう工夫している。近所のゴミひろい、夏まつり、中学生の体験学習の受け入れ、中学生ボランティアによる週1回の草引き、その他のボランティアの受け入れなど、出会えた方との交流を大切にしている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	グループホーム小松の里
(ユニット名)	東 通 り
記入者(管理者)	
氏 名	伊藤 嘉奈子 (津島 美由紀)
評価完了日	平成 20 年 12 月 18 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 法人としての運営理念、グループホームの心がけがある。 (外部評価) 設立当初から、運営理念の一つとして「地域の人たちとの交流を図り、入居者の暮らしが地域社会に開かれたものとなるよう努めます。」という項目を掲げており、地域密着型サービスとしての役割を目指している。		同じ方向性で援助出来る様取り組んでいる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 各ユニットの目に付くところに掲示し、また、心掛けは毎日朝会、夕会時に必ず復唱し就業するようにしている。 (外部評価) 理念を日常の様々な場面において活かしていくにはどうすればよいかを考えており、その手立てとして「温かく、さりげなく、気くばりと目くばり」という4つの「心がけ」を掲げて毎朝・夕の申し送り時に復唱して日々実践している。	※	スタッフ全員が同じ気持ちで、日々のケアに努めていける様取り組んでいきたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 入居前に説明し、運営推進会議等でも理解してもらえるよう伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) ホーム周辺の近隣の方に会った時等は、笑顔で挨拶するよう心がけている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 近隣の小、中学校の運動会、文化祭に参加したり、広報誌を配布したりしている。 (外部評価) 利用者が地域の活動に参加する機会が少ないため、ホームが企画して地域の方に参加してもらう形で交流を深められるよう工夫している。近所のゴミひろい、夏まつり、中学生の体験学習の受け入れ、中学生ボランティアによる週1回の草引き、その他のボランティアの受け入れなど、出会えた方との交流を大切にしている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 二か月に一度、ホーム周辺町道のゴミ拾いを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) すべての職員が年二回の自己評価を行っているが、全員が理解し、評価をいかせるところまではいっていない。 (外部評価) 良質なケアサービスの水準を確保しながら、更なる向上を図ろうという思いで、全職員が自己評価に取り組み、振り返りを行うことで新たな気づきがあり、それらをサービスに活かしている。	※	全員が意義を理解し、評価をいかしていけるよう取り組んでいく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 二カ月に一回には行えていないが、会を持ち意見を出し合っている。 (外部評価) 運営推進会議において外部評価結果を議題として取り上げ、話し合って改善できることから具体的に取組んでいる。利用者の様子を理解してもらうために、クリスマス会などホーム行事に参加してもらって成果を得ている。日程調整が難しいため欠席される方が多く、地域からの参加が少なくなっている。	※	自治会、公民館、近所の住民など様々な立場の方の日程を合わせるのは難しいと思われるが、会議の意義や役割を根気強く伝えながら参加を促していく努力を期待したい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 月に一回介護相談員の方の来訪があり、そこからサービス向上につなげている。 (外部評価) 介護相談員、地域包括支援センター職員とともに運営推進会議のメンバーとして交流している。書類提出窓口の職員とは顔見知りで、相談できる関係を築いているが、問題解決に向けた協働関係にあるとまでは言えない。	※	もっと連携を深めていく。 行政の取り組みや担当が変わっても課題解決に必要な支援が得られるような関係づくりに積極的に取り組む姿勢が求められる。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等に参加する機会が設けられており、資料等を玄関ロビーに置き、活用できるようにしている。	※	学べる機会があれば、どんどん参加する。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 日々注意を払い、防止に努めている。		身体的虐待はないが、言葉使いに気を付けている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、十分な説明を行い、入所後も疑問や質問があれば、いつでも説明する様務めている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) いつでも開ける態勢であり、介護相談員の方の来初があるため、その際に訴えられたこと等は、素直に受け止め、ケアに生かせるよう努めている。		入浴時等や居室へ訪室した際、一对一の時に話を聞くよう努めている。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 毎月の日常生活報告書送付についての報告や面会時に口答での説明、又、必要に応じて電話等でも伝えている。 (外部評価) 少なくとも月1回は家族と話し合う機会を持てるようにという意図もあり、利用料を現金集金としている。個別に買い物等の明細を含む利用料の請求と併せ、生活の様子や健康状態を、担当者による手紙を添えて毎月報告している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関ロビーに意見箱設置及び相談窓口としてホーム長が聞く体制にあり、ユニット会や申し送り等で話し合い、報告し、解釈、解消するよう努めている。 (外部評価) 意見箱の設置、相談窓口の紹介は勿論のこと、家族の来訪時には積極的に声をかけて意見等を聞いている。家族を招いての行事であるクリスマス会や敬老会を利用して家族会を開き、オープンな雰囲気の中で意見が出しやすい工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) いつでも意見や提案を聞いてもらえる環境である。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 出来ている。		職員の定着を望む。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 不定期ではあるが、ユニット間での異動はあるが、配慮されていると思う。 (外部評価) 職員の顔写真にコメントをつけて楽しく紹介したものを貼り出し、馴染んでもらえるよう工夫している。ユニット間での交流を日常的に行いホーム全体で馴染みの関係をつくっているため、やむを得ずユニット間で交代をしてもダメージを与えることは少ない。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 二か月に一度、ホームでの勉強会や段階に応じた研修への参加を行っている。 (外部評価) 外部研修会の情報を公開し、職員がそれぞれに合った研修に参加できるよう支援している。研修内容については2か月に1回開いているホーム内勉強会で報告し、全員で共有している。法人全体での勉強会も月1回程度あり、順次参加している。実技の基本研修にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 母体の病院での共同勉強会や行事等の際にお互いの施設の交流、広報誌のやり取りを行っている。 (外部評価) 法人内の4つのホームとの交流があり、情報交換をしている。県グループホーム連絡協議会や東予支部の研修会には積極的に参加して交流しているが、地域のグループホームとのネットワークはできていない。	※	法人内のみでなく、周辺のグループホームとのネットワークをつくり、勉強会や職員の相互訪問などを行うことで、相互のケアサービスの向上につなげていくことを期待したい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 年二回の母体である病院との親睦会、球技大会やスタッフ間で話し合い、ストレス軽減になっている。休憩場所は設けられているが、休憩時間がとれていないのが現状である。	※	時間をずらし休憩を取るよう、スタッフ同志の意識と協力が必要。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 今年度より一年間の目標を決め半年に一回見直し、評価、ホーム長との話し合いの場を持ち、各自が向上心を持って働いていける様取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 日々のかかわりの中から困っていること、不安なこと、求めていること等を聞く姿勢を持ち受け止める様務めている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面会時等に、話をする場を持ち尋ねたりするよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の思いの様子等を考慮しながら対応に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 徐々に馴染める様、コミュニケーションを大切にし面会時に華族様と相談しながら工夫している。 (外部評価) 入居希望者には見学してもらった上で登録を行い、在宅の状況を把握するため、継続して年2回現況届けを出してもらうようにしている。入居時には自宅を訪問して家族やケアマネジャーから情報を提供してもらおうと同時に、生活環境を確認し、ホームでの生活につないでいる。入居後1か月くらいは馴染んでもらうよう特に気を付けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 行事等の触れ合い、会話等の中から関係作りをし、築いている。 (外部評価) 昼食時には利用者と職員間で会話が弾み、笑いが絶えない明るい雰囲気があり、日々の生活の中で感情を共有している様子がうかがえる。職員からは、日々利用者の感謝の言葉や笑顔に支えられていますという言葉が聞かれた。	※	本人を尊重しながら、共に支えあえる関係を築いていける様努めたい。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 困っているときは、お互いに連絡をとり面会時の話し合いで本人を支えていく関係に努めている。	※	もっと信頼関係を深め、一緒に支えていける関係を築いていけるよう努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 面会時や電話等で近況報告をし、本人様を理解して頂けるよう努めている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) いつでも面会に来ていただけるような雰囲気作りに努め、接待、電話等の支援も行っている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の相性を把握し、気の合った者同士の席やうまく皆と関わりが持てるよう努力している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 病院への入院で、退所となった方の所へ面会に行くことや、退所した方n所へ広報誌を配布したりしているが、家族様との交流はあまりない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居前に家族様の希望を聞いたり、本人様の話の中から読み取るように努め、ユニット会等で検討している。 (外部評価) 家族からの情報は多いとは言えないが、日々の暮らしの中で利用者に寄り添って話を聞いたり、ふとした行動の中から思いを汲み取るよう努力している。気づいた情報は詳しく記載し、さらに集積した情報をセンター方式のアセスメントシートに転記して、全職員が共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族様からの情報や本人様との会話の中から把握に努め、ユニット会等でも話し合っているが、把握に至っていない。	※	カンファレンスを実施し一人一人の望んでいることを把握しケアにつなげていく。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々のかかわりで、観察を十分に行い把握に努めており、統合的に把握できるようセンター方式を取り入れはいるが、十分な活用ができていない。	※	センター方式の活用。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ユニット会時に見直し、話し合い介護計画を作成し家族様にも説明を行い同意を得た上でサービスを開始している。 (外部評価) 気づきを盛り込んだアセスメントシートを基に、ユニット毎のカンファレンスで全職員で検討している。課題はできるだけしぼり、具体的で分かりやすい介護計画を作成している。加えて家族の意見と確認を得て仕上げていく。	※	本人様や家族様、又、主治医、ケアマネの意見も聞きながら介護計画作成に努めたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 月一回のユニット会见直し、変化が生じた場合は新たな計画を作成している、家族様にもその都度説明し確認して頂き同意を得た上で、サービスを開始している。 (外部評価) 介護計画の項目毎に番号を付け、日々の介護日誌に具体的に様子を記録し、評価が見直しにつながるように、一つひとつの項目を一覧にした行動計画チェック表を1か月単位で作成している。基本的には3か月ごとに見直す、毎月評価をまとめることで現状把握ができるため、必要に応じて新たな計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々記録しているカルテやオンリーワンメモ、ケア行動チェック表等を活用し、実践や介護計画の見直しに活かして。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 柔軟な対応を心掛けている。 (外部評価) 運営理念の一つに「市町村、地域の保健・医療・福祉サービスと連携して、総合的なサービスが提供できるよう努めます」と明示しており、買い物や受診付添い、帰宅等、利用者の様々な要望に柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 近隣中学の教育の一環である小松タイムやボランティア、民生委員の訪問、防災訓練、老人会等の支援を受けている。又、ホーム行事で近隣の体育館も活用している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要な時にはホーム長と相談し支援に努めている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 必要に応じて支援できている。運営推進会議にも参加してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居前にかかりつけ医の確認を取っており、入居後も往診、受診の支援を行っている。 (外部評価) 入居時に利用者の同意とかかりつけ医からの紹介を得て、母体病院がほとんどの利用者の主治医として医療にあっている。専門的な受診を希望する場合は、家族と連絡を取り職員も同行して利用者の健康状況などの情報共有ができるよう配慮している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 主治医の往診時に相談したり、質問したりする機会があり、診断、治療を受けられる体制である。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) ホーム長が看護師であり、職員にも4名の看護師がいるため相談しながら支援している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 情報交換や相談を常に行っており、連携できている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 今のところターミナルケアの実施は行っていない。病状が悪化した時はホーム長、主治医、家族様との相談を十分に行い、方針を共有している。 (外部評価) 入居希望時に、利用者及び家族には重度化した場合や終末期のケアに対応できないことを、医師を交えてくわしく説明し、納得の上で入居してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 状態に応じ病院への入院をお願いしている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 詳しく記録したサマリーを渡し、わからないことは、その都度連絡を取り情報交換を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) プライバシーの保護や個人情報の守秘義務を守っている。 (外部評価) 日常生活の中で利用者の尊厳を傷つけることのないよう、声かけや対応には十分気をつけている。トイレ介助や誘導、入浴時や居室への出入りなどにも配慮している。広報誌や書類の開示については家族の同意なしには行わないなどの取り決めもある。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 希望の表出や自己決定してもらえる場面を作り可能な限り入居者が暮らしやすい支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人のペースを大切にしよう心がけてはいるが、業務優先となり入居者のペースを乱している場面もある。 (外部評価) 常にユニット別にその日の利用者の気持ちにそった過ごし方ができるように配慮している。当たり前生活を大切に、買い物に行きたい、中庭のベンチで日向ぼっこしたい、土いじりをしたい、今日は寝ていたい、ちょっと出かけた等、利用者の気持ちを大切にしている。	※	第一に入居者を思う気持ちでケアに努めていくよう取り組む。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 本人の希望で近隣の理容、美容院に来て頂いている。又、家族様やスタッフと店に行っている方もいる。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備や片付けを行っているが時間の都合で、職員がしてしまっている場面もある。 (外部評価) 季節の食材を使い、会話を楽しみながら作っている。匂いや音に誘われるようにテーブルのまわりに集まり、あれこれ好きなことを話しているうちに、テーブルの上に出てきた物をそれぞれが配膳している。職員も一緒になって、ワイワイ楽しく食事をしている。	※	台所仕事が可能の方や好きな方には一緒に行えるよう支援し、本人の希望の食事も取り入れながら支援していく
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲み物等は希望を聞き好きなものを提供しているが、おやつ等は、ほとんど一緒のものが多い。	※	できる限り好みのものを取り入れ、楽しんで頂けるよう支援に努める。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表で、一人一人の排泄パターンを把握し、その人に合った支援をしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 一人一人に声かけし希望を聞いたり、タイミングに合わせながら毎日入浴してもらえるよう努めている。 (外部評価) 気の合う職員が支援しながら、のんびりと入浴している。家庭的な浴室ではあるが、浴槽が大きいので仲の良い利用者が一緒に入ることもある。毎日午後を入浴時間としているが、気が進まない方には近所の足湯に誘うなど工夫している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の状態や状況に合わせた支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 個々のできることにむけた支援や個々に応じた場面作り楽しみ事を取り入れるよう努めている。 (外部評価) 野菜の水やりや収穫、草抜き、花の栽培、食事の下ごしらえ、配膳、片付け、食器洗い、洗濯物干し等、持てる機能を活かしていきいきと過ごせるよう支援している。外食、花見、運動会、クリスマス会、ひな祭りなど盛りだくさんの行事を企画して楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理ができる人は、自分で所持しており買物の際自分で支払いしている、その他の方には一緒にいき支払はスタッフがやっている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 買い物等の希望があるときは、いける様支援し月に一回程度、外食に全員でいける様支援している。 (外部評価) 買い物、近所の散歩、足湯など、希望に応じていつでも出かけられるよう支援している。多くの方が、家庭菜園もある広い裏庭を散歩したり、ベンチに座ってひと時を過ごすことを楽しんでいる。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) ユニットで外食、買い物へ出かける機会はあるが、ホーム近くであり遠距離は困難である。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば、いつでも電話をかけられるよう支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも訪問でき、スタッフは笑顔で挨拶する様心がけお茶等の接待を行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていない。		危険を伴うような場面は、ベッド柵を使用する時もある。(1本)
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 21時から7時までは防犯のため玄関は施錠しているが、日中施錠することはない、又、居室も施錠することはない。 (外部評価) 玄関からもベランダからもいつでも自由に外出できるが、利用者の行動傾向をしっかり把握しており、見守りのできる位置に常に職員がいるようにしている。外出したいという利用者の気持ちを大切に見守っている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 常に入居者の居場所の確認と様子を把握し、安全に配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 個々に応じてハサミ、剃刀等を持ってもらい注意見守りを行っている。	※	常に安全に配慮が必要。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 緊急時対応マニュアルを作成し勉強会等を実施し、避難訓練(年二回)も実施し取り組んでいる。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 救急救命講習に全スタッフが参加している。	※	定期的に取り入れているが、最低でも年一回の訓練が必要。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難場所は確保されており年二回消防署の協力を得て避難訓練を実施している。又。運営推進会議等でも協力をお願いしている。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得て、夜間も想定した避難訓練を行っている。消火訓練、通報の試行も実施している。ホームは雨が強い時には水害を受けることがあり、実際に近くの公民館に避難したこともある。	※	運営推進会議で提案依頼をしながら、自治会、近所の住民、地域の消防分団などを巻き込んで、避難訓練を重ねていくことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 入居契約時や面会時に家族様に説明し納得してもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタルチェック、普段の状態の把握に努め変化に気付いた際には速やかに情報を共有し対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効果、用法等すぐに確認できるようにファイルに綴じており、症状の変化の確認に努めている。服用時は最後まで見守り確認している。	※	確実な服薬確認に努める。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) センナ茶の飲用、体を動かすよう体操を取り入れたり工夫している。又、繊維質の多い食物を取り入れる工夫もしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを実施、毎日就寝前に洗浄液に浸けての対応を行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事、水分摂取量を記録し状態に応じて嗜好品を考慮している。 (外部評価) 栄養バランスに配慮しながら献立をたてている。時々母体病院の栄養士の協力を得て、カロリー等のチェックをしてもらっている。水分については、一日全体を通してお茶、水、汁物などトータル量で確保している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症マニュアルがあり対応している。ペーパータオルを使用し消毒液でのテーブル拭き手指消毒を実施している。インフルエンザ予防接種を年一回実施。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理前後の手洗いの徹底、まな板、布巾消毒を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関ロビーに水槽、季節にあった装飾品を置き外回りには季節の花を植えている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 光加減や空調、テレビ音等はその都度調節しており、リビングや廊下には、手作りカレンダーや貼り物、写真、置物等を飾っている。 (外部評価) 対面式ダイニングは居心地よく、生活の中心となっている。居間はゆったりとした広さがあり、落ち着いた色あいのソファやテーブルの配置を工夫してそれぞれの居場所をつくっている。畳のコーナーは腰掛けるのにちょうどいい高さとなっている。洗濯物をたたんだり、時には演芸ボランティアの舞台としても利用している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ウッドデッキや中庭にはベンチを設置しており、ゆっくりと思思いに過ごせる居場所を設けている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 個々に馴染みの物（タンス、仏壇、テレビ、冷蔵庫、机等）を持ち込まれているが少ない。ホームで作った写真等を飾っている方が多い。 (外部評価) 使い慣れた箆笥、仏壇、冷蔵庫、家族からのプレゼントや写真、思い出の品等が持ち込まれており、それぞれの利用者が居心地良く過ごせるような居室となっている。簡単な電気製品を持ち込んでいる利用者もいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 24時間換気システムがあり掃除の際は窓をあけ、空気の入れ替えを行っている。10° 15° 20° に室温チェックをし温度調節をおこなっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ホーム内はバリアフリーになっており、キッチンシンク、洗面台等は使いやすい高さ、手すり等の設置により自立歩行も安全にできる様配慮されている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 見やすい場所に時計を設置し、それぞれの居室がわかりやすいように写真、名前入りの色紙を貼ったりトイレの表示もしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 建物の外回りには花や木々の植え込みがあり、中庭には畑や散歩ゲートボール場ベンチ等を設置しており、外でも楽しく活動できるようなスペースがある。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	普通の会話の中から思いや願いを聞き取れる方もおり、意向を考慮したケアに努めている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	談話や朗読、音読、ゲーム体操等のレクリエーション時やおやつ、食事を職員も同じテーブルで摂るといった配慮を実施している。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	居室で過ごされる方もいれば、リビングにて他の入居者や職員と談話したりテレビ観賞をしたり個々のペースで過ごしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	お礼の言葉が聞けたり、笑顔が見られ生き生きとした表情を引き出せるようケアに努めている。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	買い物に行きたい等の希望があれば、できる限り支援を行っているが外出を希望される方があまりおられず、月一回ユニット全員で外食を兼ね出かける行事が主流になっている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日のバイタルチェックにて健康管理し、日常の表情や様子観察で変化の気付きに努めている。症状に変化が見られた時は、ホーム長や職員の看護師に相談でき、週に一度の往診がある。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	傾聴、共感的態度で要望に応じた柔軟な対応を心掛けている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 1 ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	日常生活報告書を月一回送付し面会時や電話等で聞くよう努めているが、家族様からの希望があまりなく家族様からの希望が聞けるような関係を作っていく。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	知人や前職員が立ち寄ってくれることがたまにあるが、ほとんどが家族様の面会である。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	行事等に参加してくださる方が多くなりつつある。帰宅願望のある入居者が外に出て行かれた時などは、近隣の方が見守りや声かけをしていただけていることが多い。
98	職員は、生き生きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	生き生きと働いている職員もいるがストレスが溜まっているように見える職員や意欲が感じられない職員もいる。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	その時々での喜びの声や感謝の言葉を聞いた時、楽しそうな声や表情から満足していただけていると感じることがある。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会に来られた時「家で自分たちでは見てあげられんけんありがたい」という言葉や申し訳なさそうな言葉を聞くことが多く表情からも満足していただけているのではないかと思います。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・各ユニットごとに外食、外出の機会を設けている。
- ・広報紙の配布
- ・地域行事の参加（運動会、文化祭）
- ・季節に応じた行事、催しもの・おやつの充実
- ・畑にて家庭菜園ができる。
- ・二カ月に一回の勉強会
- ・個々のアルバムの作成
- ・個々に見合ったケアプランの作成、実施
- ・毎月家族様への日常生活報告書の送付（食事、入浴、排泄、健康、行事参加の様子、ケアプラン実施状況、日常の様子）を記載
- ・定期的な歌謡ショー等の慰問がある
- ・毎日、朝と夕の申し送り後ホーム心がけ復唱により、その言葉を胸にケア仕事に努めている「温かく・さり気なく・気くばり目くばり」

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム小松の里

(ユニット名) 西 通 り

記入者(管理者)
氏 名 黒川 夕佳 (津島 美由紀)

評価完了日 平成 20 年 12 月 18 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 理念があり、目の付く所に掲示してある。 (外部評価) 設立当初から、運営理念の一つとして「地域の人たちとの交流を図り、入居者の暮らしが地域社会に開かれたものとなるよう努めます。」という項目を掲げており、地域密着型サービスとしての役割を目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 名札の裏に記載し、いつでも確認できる。 朝夕の申し送り時に唱和している。 (外部評価) 理念を日常の様々な場面において活かしていくにはどうすればよいかを考えており、その手立てとして「温かく、さりげなく、気くばりと目くばり」という4つの「心がけ」を掲げて毎朝・夕の申し送り時に復唱して日々実践している。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 目に付く所に掲示してある。また行事の案内や広報誌の発行などにより理解を示している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 明るく挨拶を心掛けている。 行事の案内状や広報誌の配布を行っている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 近隣の中学校を地域住民の交流は行事ごとを通じて見られている。 (外部評価) 利用者が地域の活動に参加する機会が少ないため、ホームが企画して地域の方に参加してもらう形で交流を深められるよう工夫している。近所のゴミひろい、夏まつり、中学生の体験学習の受け入れ、中学生ボランティアによる週1回の草引き、その他のボランティアの受け入れなど、出会えた方との交流を大切にしている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 広報誌や行事の案内状を配布、それにより立ち寄られる方もいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価は全てのスタッフが行っており、評価を改善に努めている。 (外部評価) 良質なケアサービスの水準を確保しながら、更なる向上を図ろうという思いで、全職員が自己評価に取り組み、振り返りを行うことで新たな気づきがあり、それらをサービスに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 取り組み状況等についての報告行っている意見もサービス向上に活かせるよう考えている。	※	自治会、公民館、近所の住民など様々な立場の方の日程を合わせるの難しいと思われるが、会議の意義や役割を根気強く伝えながら参加を促していく努力を期待したい。
			(外部評価) 運営推進会議において外部評価結果を議題として取り上げ、話し合って改善できることから具体的に取組んでいる。利用者の様子を理解してもらうために、クリスマス会などホーム行事に参加してもらって成果を得ている。日程調整が難しいため欠席される方が多く、地域からの参加が少なくなっている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 介護相談員の訪問がある。	※	行政の取り組みや担当が変わっても課題解決に必要な支援が得られるような関係づくりに積極的に取り組む姿勢が求められる。
			(外部評価) 介護相談員、地域包括支援センター職員とともに運営推進会議のメンバーとして交流している。書類提出窓口の職員とは顔見知りで、相談できる関係を築いているが、問題解決に向けた協働関係にあるとまでは言えない。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を受けて学んでいる。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ホームの勉強会や研修で学んでおり、十分注意してケアに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者により説明行えている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) コミュニケーションを図り理解に努めている。面会時には個室に案内し、話しやすい場所作りをしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月1ヶ月の様子を記載した手紙を華族に送り、報告している。 (外部評価) 少なくとも月1回は家族と話し合う機会を持つという意図もあり、利用料を現金集金としている。個別に買い物等の明細を含む利用料の請求と併せ、生活の様子や健康状態を、担当者による手紙を添えて毎月報告している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置しており、改善に努めている。 (外部評価) 意見箱の設置、相談窓口の紹介は勿論のこと、家族の来訪時には積極的に声をかけて意見等を聞いている。家族を招いての行事であるクリスマス会や敬老会を利用して家族会を開き、オープンな雰囲気の中で意見が出しやすい工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は意見を聞いてくれている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 対応、調整に努めている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) ユニット間の移動あり。 (外部評価) 職員の顔写真にコメントをつけて楽しく紹介したものを貼り出し、馴染んでもらえるよう工夫している。ユニット間での交流を日常的に行いホーム全体で馴染みの関係をつくっているため、やむを得ずユニット間で交代をしてもダメージを与えることは少ない。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 管理者により段階に応じた研修への参加が徹底できている。 また、各自が希望して参加も行えている。2ヶ月に1度の勉強会にて報告し、共有できている。 (外部評価) 外部研修会の情報を公開し、職員がそれぞれに合った研修に参加できるよう支援している。研修内容については2か月に1回開いているホーム内勉強会で報告し、全員で共有している。法人全体での勉強会も月1回程度あり、順次参加している。実技の基本研修にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修の参加や他の施設の行事等に参加し、交流を図っている。 (外部評価) 法人内の4つのホームとの交流があり、情報交換をしている。県グループホーム連絡協議会や東予支部の研修会には積極的に参加して交流しているが、地域のグループホームとのネットワークはできていない。	※	法人内のみでなく、周辺のグループホームとのネットワークをつくり、勉強会や職員の相互訪問などを行うことで、相互のケアサービスの向上につなげていくことを期待したい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいる。 スポーツクラブの設置あり。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 各自、目標を設定しており、向上心を持って取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居前に本人と面接し、じっくり話を聞いている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居前の面接に本人と家族に同席してもらい、じっくり話を聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居判定を入居前に行っており、見極めしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居後は早く生活に馴染めるよう本位とコミュニケーションを図りながら配慮し、支援している。出来る限り家族と話す機会を作っている。 (外部評価) 入居希望者には見学してもらった上で登録を行い、在宅の状況を把握するため、継続して年2回現況届けを出してもらうようにしている。入居時には自宅を訪問して家族やケアマネジャーから情報を提供してもらおうと同時に、生活環境を確認し、ホームでの生活につないでいる。入居後1か月くらいは馴染んでもらうよう特に気くばりをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 共に一緒に過ごす中で入居者に教えられ、助けてもらう事もある。支え合う関係を大切に思い取り組んでいる。 (外部評価) 昼食時には利用者と職員間で会話が弾み、笑いが絶えない明るい雰囲気があり、日々の生活の中で感情を共有している様子がうかがえる。職員からは、日々利用者の感謝の言葉や笑顔に支えられていますという言葉が聞かれた。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事の案内を行い、一緒に過ごす場が持てるよう支援している。 家族との会話を心がけ、情報の共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 支援していけるよう努めている。面会に来られない家族には手紙で1ヶ月に1度様子を報告している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族は知人がホームに来易い雰囲気作りをする。	※	本人が望む事があればなじみの場所へ出掛ける事も考えたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 関係は把握しており、問題が起きれば職員が中に入り対応している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 他の施設や病院に異動になった場合、スタッフ個人的に面会に行く事はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 個々の思いを優先に考えたケアをしていけるよう努めている。月1回、スタッフ間で話し合っている。 (外部評価) 家族からの情報は多いとは言えないが、日々の暮らしの中で利用者に寄り添って話を聞いたり、ふとした行動の中から思いを汲み取るよう努力している。気づいた情報は詳しく記載し、さらに集積した情報をセンター方式のアセスメントシートに転記して、全職員が共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族の方との会話から、また本人から話を聞いている。センター方式の活用あり。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々努めており、カルテ記入や月1回の会でスタッフ間での共有も出来ている。ケアプランにて役割化した。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月のユニット会で全員のケアを話し合い、計画の見直しの作成を行っている。 (外部評価) 気づきを盛り込んだアセスメントシートを基に、ユニット毎のカンファレンスで全職員で検討している。課題はできるだけしぼり、具体的で分かりやすい介護計画を作成している。加えて家族の意見と確認を得て仕上げていく。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 見直し出来ている。状況に応じた介護計画が作成出来ている。 (外部評価) 介護計画の項目毎に番号を付け、日々の介護日誌に具体的に様子を記録し、評価が見直しにつながるように、一つひとつの項目を一覧にした行動計画チェック表を1か月単位で作成している。基本的には3か月ごとに見直す。毎月評価をまとめることで現状把握ができるため、必要に応じて新たな計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日カルテ記入、ケアプランの実施状況の記録をとっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) グループホームとして出来る限りの支援をしている。 (外部評価) 運営理念の一つに「市町村、地域の保健・医療・福祉サービスと連携して、総合的なサービスが提供できるよう努めます」と明示しており、買い物や受診付添い、帰宅等、利用者の様々な要望に柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) ボランティア、消防、民生委員の方などと協力している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要に応じて行えているように思う。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 必要に応じて行えているように思う。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 週に1回往診があり、それ以外にも必要時には病院受診を行っている。 (外部評価) 入居時に利用者の同意とかかりつけ医からの紹介を得て、母体病院がほとんどの利用者の主治医として医療にあたっている。専門的な受診を希望する場合は、家族と連絡を取り職員も同行して利用者の健康状況などの情報共有ができるよう配慮している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 支援できている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員が在籍しており、相談しながら支援出来ている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 病院との連携は密に行っている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 終末期には対応していない。 ホームでの生活限界まで支援出来ている。 (外部評価) 入居希望時に、利用者及び家族には重度化した場合や終末期のケアに対応できないことを、医師を交えてくわしく説明し、納得の上で入居してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 必要時には主治医・家族・管理者が話し検討している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 環境面での配慮に努めてる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 言葉かけや対応に十分気を付けている。 個人情報の取り扱いはしていない。 (外部評価) 日常生活の中で利用者の尊厳を傷つけることのないよう、声かけや対応には十分気をつけている。トイレ介助や誘導、入浴時や居室への出入りなどにも配慮している。広報誌や書類の開示については家族の同意なしには行わないなどの取り決めもある。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 自己決定できるような声かけや働きかけを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人のペースを大切にした対応を心がけて行っている。 (外部評価) 常にユニット別にその日の利用者の気持ちにそった過ごし方ができるように配慮している。当たり前の生活を大切に、買い物に行きたい、中庭のベンチで日向ぼっこしたい、土いじりをしたい、今日は寝ていたい、ちょっと出かけたがたい等、利用者の気持ちを大切にしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 散髪は外部から必要時に来てくれている。身だしなみには気配りしている。家族の同意を得て、ホームで白髪染めを行っている方もいる。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は出来るだけ全員揃ってスタッフも一緒に談話しながら摂るようにしている。準備や片付けも出来る人が一緒に行っている。 (外部評価) 季節の食材を使い、会話を楽しみながら作っている。匂いや音に誘われるようにテーブルのまわりに集まり、あれこれ好きなことを話しているうちに、テーブルの上に出てきた物をそれぞれが配膳している。職員も一緒になって、ワイワイ楽しく食事をしている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) ジュース等、預かり物もあり、欲しい時に出している。硬い物が苦手な人には柔らかいおやつを出したり配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表にて個々のパターンをつかんだ対応をしている。失敗時にはすぐに交換し、気持ちよく過ごせるように配慮している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 毎日の体調や気分に合わせて声かけをし、対応している。ゆっくりと入浴できるよう支援している。 (外部評価) 気の合う職員が支援しながら、のんびりと入浴している。家庭的な浴室ではあるが、浴槽が大きなので仲の良い利用者が一緒に入ることもある。毎日午後を入浴時間としているが、気が進まない方には近所の足湯に誘うなど工夫している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 和室を利用して休んだり、眠れない時はお茶を飲んでもらったりと安眠できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 毎月のユニット会で全員のケアを話し合い、個々のできることに目を向けた支援または楽しみごとを取り入れたケアができるよう努めている。 (外部評価) 野菜の水やりや収穫、草抜き、花の栽培、食事の下ごしらえ、配膳、片付け、食器洗い、洗濯物干し等、持てる機能を活かしていきいきと過ごせるよう支援している。外食、花見、運動会、クリスマス会、ひな祭りなど盛りだくさんの行事を企画して楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ホームでの立替がほとんどだが、一部お金を持っている方もいる。自分で支払う楽しみが味わえるようスタッフと買い物へ行ったときには支払う事もある。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 食材の買出しや、ドライブ、散歩など無理のない程度にスタッフと出掛けている。天気の良い日は庭に出て日光浴をしている。 (外部評価) 買い物、近所の散歩、足湯など、希望に応じていつでも出かけられるよう支援している。多くの方が、家庭菜園もある広い裏庭を散歩したり、ベンチに座ってひと時を過ごすことを楽しんでいる。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族と毎週ドライブへ出掛けている方もいる。月に一度はユニット全員でドライブや外食に出掛けている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自分で可能な方には自由に使ってもらっている。不穏時、家族に連絡し、声を聞かせてあげる事で安心される方もいる。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時には明るい挨拶を心がけており、お茶を出し、ゆっくり過ごせる場所へ案内し、配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は全く行っていない。徘徊のある人は、無理のない限りスタッフが一緒に同行している。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間、一般の防犯対策の鍵のみで、居室やユニットに鍵をかける事無く、玄関にセンサーチャイムを取り付けている。 (外部評価) 玄関からもベランダからもいつでも自由に外出できるが、利用者の行動傾向をしっかり把握しており、見守りのできる位置に常に職員がいるようにしている。外出したいという利用者の気持ちを大切に見守っている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 所在確認、安全に配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) その都度対応している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) マニュアルを作成しており、取り組んでいる。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 救命救急の講習の受講をしている。	※	定期的な講習の参加
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練を年に2回実施している。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得て、夜間も想定した避難訓練を行っている。消火訓練、通報の試行も実施している。ホームは雨が強い時には水害を受けることがあり、実際に近くの公民館に避難したこともある。	※	運営推進会議で提案依頼をしながら、自治会、近所の住民、地域の消防分団などを巻き込んで、避難訓練を重ねていくことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 家族の方に説明し理解してもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝、バイタルチェックを行い、体調不良時には都度対応している。カルテに記入し、情報の共有をしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋は目の通せる所においてあり、いつでも確認できるようにになっている。服薬時には3度の確認を徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) センナ茶を使用しており、体調に応じて濃度を変えたり中止したりしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声かけ介助を行っている。定期的にポリドントを実施している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量、水分摂取量を毎回記録している。摂取量の少ない時は声かけや、好む物を出すなどして対応している。 (外部評価) 栄養バランスに配慮しながら献立をたてている。時々母体病院の栄養士の協力を得て、カロリー等のチェックをしてもらっている。水分については、一日全体を通してお茶、水、汁物などトータル量で確保している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルを作成し、実行している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 台拭き、まな板の消毒や新鮮な食材の購入に努めている。食器類は毎回乾燥機に入れて乾燥している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 建物周辺には草木を植え、畑作りも行っている。玄関やロビーには季節に応じた装飾品を置き、親しみやすい環境を整えている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) カーテンの開閉、エアコンの調整、テレビの音など、その都度入居者の意向を伺いながら調整している。 (外部評価) 対面式ダイニングは居心地よく、生活の中心となっている。居間はゆったりとした広さがあり、落ち着いた色合いのソファやテーブルの配置を工夫してそれぞれの居場所をつくっている。畳のコーナーは腰掛けるのにちょうどいい高さとなっている。洗濯物をたたんだり、時には演芸ボランティアの舞台としても利用している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室、ウッドデッキ、中庭のベンチなど、思い思いに過ごせるスペースがある。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 個々に馴染みの家具や持ち物を持ち込んでいる。また、居室の飾りつけも本人や家族の好みのように行っている。 (外部評価) 使い慣れた箆笥、仏壇、冷蔵庫、家族からのプレゼントや写真、思い出の品等が持ち込まれており、それぞれの利用者が居心地良く過ごせるような居室となっている。簡単な電気製品を持ち込んでいる利用者もいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 24時間換気を行っている。掃除の際には窓を開け空気の入替えを行っている。1日3回室内温度の確認、記録、調整をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下、トイレ、浴室に手すりを設置している。台所や洗面台も使いやすい高さに作られている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人一人に合ったプランを立てて実行している。混乱のないようなケアに努めている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ウッドデッキで日光浴したり、中庭でゲートボール大会を行ったり散歩したりと、充分活用できている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	掴むように努力している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	食事やおやつと一緒に談話しながら飲食し、時間を共有している。また、一緒に日光浴や歌を唄ったりと日中を過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々に合わせたケアを実施している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の声かけや、毎日のレクリエーション等で、生き生きとした表情がみられる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	希望があれば散歩や買い物へ出掛けている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	週1回の往診と、体調不良の場合はその都度、病院と連携がとれるようになってきている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	その都度の状況に応じたケアに努めている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時には声をかけ、会話に努めている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	行事ごとに案内を出しており、地域の人々の参加がみられている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	会議を通じて広がっているように思う。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	楽しく会話し、自然体で働いている人が多いように思う。人員が不足している場合は、体力定期に負担を感じる事があった。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	満足してもらえるようなケアを心がけ努めている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会によく来られる方は入居者の状況を目にされ、スタッフにねぎらいの言葉や、ケアに対してお礼を言ってくれる方も多い。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・ 毎日の外出や季節を取り入れた行事ごとの取り組み
- ・ 広報誌の作成、写真をたくさん入れることで様子がよくわかり、おもしろい物になっている
- ・ 畑作り
- ・ 食材の買出しに入居者と出掛ける
- ・ 食事や、いろいろなおやつ作りに力を入れている
- ・ 誕生会を誕生月に行っている (手作りケーキ)
- ・ 個人アルバムの作成
- ・ スタッフの明るさ、挨拶励行
- ・ ウッドデッキや和室の空間
- ・ ケア全般利用者本意で行っているようスタッフが意見を出し合える

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	グループホーム小松の里
(ユニット名)	上 通 り
記入者(管理者)	
氏 名	愛久澤 剛史 (津島 美由紀)
評価完了日	平成 20 年 12 月 18 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 独自の理念を作っている (心がけ) (外部評価) 設立当初から、運営理念の一つとして「地域の人たちとの交流を図り、入居者の暮らしが地域社会に開かれたものとなるよう努めます。」という項目を掲げており、地域密着型サービスとしての役割を目指している。		名札の裏に記載や、フロアへの掲示で常に目を通せるようにしている。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいる。 (外部評価) 理念を日常の様々な場面において活かしていくにはどうすればよいかを考えており、その手立てとして「温かく、さりげなく、気くばりと目くばり」という4つの「心がけ」を掲げて毎朝・夕の申し送り時に復唱して日々実践している。		朝夕の申し送り時、復唱し、再確認や意識づけを行っている。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいる。		ロビーや目に付く所に掲示し、説明を求められた時には理解してもらえるよう努めている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 来所された方々には挨拶を心がけている。 また近所の方に会った時には気持ちよく挨拶をしている。	※	挨拶程度のつきあいで、日常的な付き合いの実践には至っていない。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 行事、イベント時くらいの交流である。 (外部評価) 利用者が地域の活動に参加する機会が少ないため、ホームが企画して地域の方に参加してもらい形で交流を深められるよう工夫している。近所のゴミひろい、夏まつり、中学生の体験学習の受け入れ、中学生ボランティアによる週1回の草引き、その他のボランティアの受け入れなど、出会えた方との交流を大切にしている。	※	地域の一員としての活動を行いたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 具体的な取り組みは行っていない。	※	地域高齢者の情報がはっきり解らないため、地域の事をもっと理解する必要がある。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 指摘事項の改善など、少しずつではあるが取り組んでいる。 (外部評価) 良質なケアサービスの水準を確保しながら、更なる向上を図ろうという思いで、全職員が自己評価に取り組み、振り返りを行うことで新たな気づきがあり、それらをサービスに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で出た意見は、サービス向上に活かしている。	※	運営推進会議のメンバーを増やすよう働きかけ、どんどん充実した会議にしたい。
			(外部評価) 運営推進会議において外部評価結果を議題として取り上げ、話し合っ改善できることから具体的に取組んでいる。利用者の様子を理解してもらうために、クリスマス会などホーム行事に参加してもらって成果を得ている。日程調整が難しいため欠席される方が多く、地域からの参加が少なくなっている。	※	自治会、公民館、近所の住民など様々な立場の方の日程を合わせるのは難しいと思われるが、会議の意義や役割を根気強く伝えながら参加を促していく努力を期待したい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいる。		
			(外部評価) 介護相談員、地域包括支援センター職員とともに運営推進会議のメンバーとして交流している。書類提出窓口の職員とは顔見知りで、相談できる関係を築いているが、問題解決に向けた協働関係にあるとまでは言えない。	※	行政の取り組みや担当が変わっても課題解決に必要な支援が得られるような関係づくりに積極的に取り組む姿勢が求められる。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修や勉強会などに参加し、学ぶ機会を作っている。		必要な人には活用出来る様な体制は整っている。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修等に参加し、学ぶ機会がある。		職員全員が理解している。 事業所内で、虐待が見過ごされる事のないよう常に心がけている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に説明し、理解の上での契約を行っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見、不満、苦情等を表に出せるよう心がけている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 定期的に報告している。 (外部評価) 少なくとも月1回は家族と話し合う機会を持てるようにという意図もあり、利用料を現金集金としている。個別に買い物等の明細を含む利用料の請求と併せ、生活の様子や健康状態を、担当者による手紙を添えて毎月報告している。		毎日の暮らしぶりを報告書として送付し、面会時に話をする時間を作っている。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 反映されている。 (外部評価) 意見箱の設置、相談窓口の紹介は勿論のこと、家族の来訪時には積極的に声をかけて意見等を聞いている。家族を招いての行事であるクリスマス会や敬老会を利用して家族会を開き、オープンな雰囲気の中で意見が出しやすい工夫をしている。		意見、クレーム等があれば、管理者やスタッフと話し合い改善に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会、リーダー会などで職員の意見や提案を聞き、反映されている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 努めている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動はあるが、利用者へのダメージは今の所ないと思われる。 (外部評価) 職員の顔写真真にコメントをつけて楽しく紹介したものを貼り出し、馴染んでもらえるよう工夫している。ユニット間での交流を日常的に行いホーム全体で馴染みの関係をつくっているため、やむを得ずユニット間で交代をしてもダメージを与えることは少ない。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各種の研修や勉強会などで、個々のレベルに合ったトレーニングを行っている。 (外部評価) 外部研修会の情報を公開し、職員がそれぞれに合った研修に参加できるよう支援している。研修内容については2か月に1回開いているホーム内勉強会で報告し、全員で共有している。法人全体での勉強会も月1回程度あり、順次参加している。実技の基本研修にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 具体的な取り組みは行っていない。	※	今後、交流する機会を設けたい。
			(外部評価) 法人内の4つのホームとの交流があり、情報交換をしている。県グループホーム連絡協議会や東予支部の研修会には積極的に参加して交流しているが、地域のグループホームとのネットワークはできていない。	※	法人内のみでなく、周辺のグループホームとのネットワークをつくり、勉強会や職員の相互訪問などを行うことで、相互のケアサービスの向上につなげていくことを期待したい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいる。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 年間の自己目標設定をし、各自概ね向上心を持って働けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人から話が出るよう働きかけ、傾聴し、受け止めるよう取り組んでいる。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族様とは、どんな小さな事で話す機会を作り、受け止める努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 家族様と相談しながら努めている。 (外部評価) 入居希望者には見学してもらった上で登録を行い、在宅の状況を把握するため、継続して年2回現況届けを出してもらうようにしている。入居時には自宅を訪問して家族やケアマネジャーから情報を提供してもらおうと同時に、生活環境を確認し、ホームでの生活につないでいる。入居後1か月くらいは馴染んでもらうよう特に気くばりをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 支えあう関係作りに努めている。 (外部評価) 昼食時には利用者と職員間で会話が弾み、笑いが絶えない明るい雰囲気があり、日々の生活の中で感情を共有している様子がうかがえる。職員からは、日々利用者の感謝の言葉や笑顔に支えられていますという言葉が聞かれた。		職員を介護する立場とおかず、共に助け合う関係づくりを目指している。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 築けている。		家族様と共に考え、共に意見を交換し、共に支えあう関係づくりを目指している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 離れていても、家族様の話題を提供したりして、決して忘れる事のないように支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人の面会もある。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価)		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 入院した場合は、お見舞いに行ったり、施設入所の場合は面会に行ったりとしているが、スタッフ個人の付き合いになっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) できている。 (外部評価) 家族からの情報は多いとは言えないが、日々の暮らしの中で利用者に寄り添って話を聞いたり、ふとした行動の中から思いを汲み取るよう努力している。気づいた情報は詳しく記載し、さらに集積した情報をセンター方式のアセスメントシートに転記して、全職員が共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 面会時等、家族様からの情報を出来るだけ聞くようにし、把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 現状の生活の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の現状の把握を基に本人はもちろん各関係者の意見を求め介護計画を作成している。 (外部評価) 気づきを盛り込んだアセスメントシートを基に、ユニット毎のカンファレンスで全職員で検討している。課題はできるだけしぼり、具体的で分かりやすい介護計画を作成している。加えて家族の意見と確認を得て仕上げている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 毎月ケアカンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っている。 (外部評価) 介護計画の項目毎に番号を付け、日々の介護日誌に具体的に様子を記録し、評価が見直しにつながるように、一つひとつの項目を一覧にした行動計画チェック表を1か月単位で作成している。基本的には3か月ごとに見直すのが、毎月評価をまとめることで現状把握ができるため、必要に応じて新たな計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の生活記録のみならず、オンリーワンメモなど気づき、情報を記録し、介護計画の見直しに活かしている。	※	オンリーワンメモによる個別の記録
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 支援出来ている。 (外部評価) 運営理念の一つに「市町村、地域の保健・医療・福祉サービスと連携して、総合的なサービスが提供できるよう努めます」と明示しており、買い物や受診付添い、帰宅等、利用者の様々な要望に柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) すこしづつではあるが、各機関との協力を得て支援出来ている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の状況に応じ、支援出来ている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 少しづつではあるが、地域包括支援センターとの協働は出来ている。		運営推進会議などの場において関わりを持っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 全入居者が母体の病院の支援を受けており、定期的な往診があり、適切な医療を受けている。 (外部評価) 入居時に利用者の同意とかかりつけ医からの紹介を得て、母体病院がほとんどの利用者の主治医として医療にあたっている。専門的な受診を希望する場合は、家族と連絡を取り職員も同行して利用者の健康状況などの情報共有ができるよう配慮している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 支援出来ている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 常勤の看護職員がおり、支援出来ている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院した場合、病院側と情報交換を行い、協働出来ている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 終期末ケアは取り組んでいない。 (外部評価) 入居希望時に、利用者及び家族には重度化した場合や終末期のケアに対応できないことを、医師を交えてくわしく説明し、納得の上で入居してもらっている。	※	終期末ケアの方針について職員の教育と理解を深め、必要に応じて共有したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) ここまででは出来るというラインが明確でないため、取り組めていない。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) ダメージの防止に努めている。		サマリー等による情報交換
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) プライバシーの確保に努めているし、個人情報の保護も守られている。 (外部評価) 日常生活の中で利用者の尊厳を傷つけることのないよう、声かけや対応には十分気をつけている。トイレ介助や誘導、入浴時や居室への出入りなどにも配慮している。広報誌や書類の開示については家族の同意なしには行わないなどの取り決めもある。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 個々のレベルに合わせ本人の希望を重視して支援している。		自己判断が困難な方については、自己決定できる能力の発見に努めている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 概ね出来ているが、場合によっては職員のペースになる事もある。 (外部評価) 常にユニット別にその日の利用者の気持ちにそった過ごし方ができるように配慮している。当たり前前生活を大切に、買い物に行きたい、中庭のベンチで日向ぼっこしたい、土いじりをしたい、今日は寝ていたい、ちょっと出かけたがたい等、利用者の気持ちを大切にしている。	※	どのような場面においても一人ひとりのペースを大切にす る心構えを持って支援していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 近所の理髪店が必要な時にホームに来て、行ってくれている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備や片付けが出来る方、またその様な作業が好きな方が、自発的に行っている。食事も常に一緒に楽しんでいる。 (外部評価) 季節の食材を使い、会話を楽しみながら作っている。匂いや音に誘われるようにテーブルのまわりに集まり、あれこれ好きなことを話しているうちに、テーブルの上に出てきた物をそれぞれが配膳している。職員も一緒になって、ワイワイ楽しく食事をしている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) お酒の好きな方にはイベント時など特別な日に飲用されている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄パターンに合わせ、定期的に誘導し、支援しているが、失敗やおむつ使用減には至っていない。	※	おむつ等必要な方と、そうでない方の検討を再認識する必要あり。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 自発的に入浴希望される方には本人本位で入浴されているが、それ以外の方は職員ペースでの入浴である。 (外部評価) 気の合う職員が支援しながら、のんびりと入浴している。家庭的な浴室ではあるが、浴槽が大きなので仲の良い利用者が一緒に入ることもある。毎日午後を入浴時間としているが、気が進まない方には近所の足湯に誘うなど工夫している。	※	職員ペースの入浴であっても出来る限りの希望の把握に努め、気持ちの良い入浴支援を心掛けたい。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 支援出来ている。		安眠出来るよう、室温の管理や居室でなかなか眠れない方にはコタツで休んでもらったりしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 支援出来ている。 (外部評価) 野菜の水やりや収穫、草抜き、花の栽培、食事の下ごしらえ、配膳、片付け、食器洗い、洗濯物干し等、持てる機能を活かしていきいきと過ごせるよう支援している。外食、花見、運動会、クリスマス会、ひな祭りなど盛りだくさんの行事を企画して楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理が出来る方には買い物に出かけた時にご自分の好きなもの買っていただいている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 日常的ではないが、外出計画に沿って外食している。 (外部評価) 買い物、近所の散歩、足湯など、希望に応じていつでも出かけられるよう支援している。多くの方が、家庭菜園もある広い裏庭を散歩したり、ベンチに座ってひと時を過ごすことを楽しんでいる。	※	月に一度は外出出来る様支援しているが、利用者の希望に沿った外出でないため、希望の表せる方だけでも意見に沿える外出を今後は行いたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 個別での外出は出来ていない。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望される方が殆どおらず。だが電話や手紙の要望があれば対応できるよう準備している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) お茶の接待など行っている。		行事の写真など掲示板など利用して見て楽しんでもらえるようにしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていない。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵は絶対にかけない。 (外部評価) 玄関からもベランダからもいつでも自由に外出できるが、利用者の行動傾向をしっかり把握しており、見守りのできる位置に常に職員がいるようにしている。外出したいという利用者の気持ちを大切に見守っている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 出来ている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 取り組んでいる。 必要に応じ保管管理している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故防止に取り組んでいる。		事故転倒した場合はヒヤリハットを活用、再発防止の検討を都度行っている。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 研修や勉強会を通じ、少しずつ理解を深めている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的に訓練を行い、災害対策に備えている。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得て、夜間も想定した避難訓練を行っている。消火訓練、通報の試行も実施している。ホームは雨が強い時には水害を受けることがあり、実際に近くの公民館に避難したこともある。	※	地域の人々の協力体制を整えたい。 運営推進会議で提案依頼をしながら、自治会、近所の住民、地域の消防分団などを巻き込んで、避難訓練を重ねていくことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 個々にどのようなリスクが生じるか理解しており、家族にも面会時などに話し、職員間でも対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日バイタルチェックを行い、おの日その時の体調を把握している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋の確認を個々にファイリングし、確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) センナ茶にて予防と対応に取り組んでいる。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 支援行えている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) チェック表にて確認している。 またカルテに記録している。 (外部評価) 栄養バランスに配慮しながら献立をたてている。時々母体病院の栄養士の協力を得て、カロリー等のチェックをしてもらっている。水分については、一日全体を通してお茶、水、汁物などトータル量で確保している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルを作成し活用しているし、勉強会、研修でも理解を深めている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日消毒し、予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 季節に合わせ飾りを変えたり、草花を植え、工夫している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 工夫出来ている。 (外部評価) 対面式ダイニングは居心地よく、生活の中心となっている。居間はゆったりとした広さがあり、落ち着いた色あいのソファやテーブルの配置を工夫してそれぞれの居場所をつくっている。畳のコーナーは腰掛けるのにちょうどいい高さとなっている。洗濯物をたたんだり、時には演芸ボランティアの舞台としても利用している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テレビを自由に観て頂いたり、ベランダ、ウッドデッキなどにも花を配置し、気軽に利用して頂いている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人が使い慣れた物品を配置し使用している。 (外部評価) 使い慣れた筆筒、仏壇、冷蔵庫、家族からのプレゼントや写真、思い出の品等が持ち込まれており、それぞれの利用者が居心地良く過ごせるような居室となっている。簡単な電気製品を持ち込んでいる利用者もいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 24時間換気を行っているし、定期的に室温をチェック、時々窓を開け外気を取り入れている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 安全な環境作りが出来ている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 混乱、失敗は時としてあるが、その後のフォローをしっかりと行う事でいろいろと工夫している。		混乱、失敗も時として必要と思われ、大事なのはその後のフォローと考えているし、職員もそれを認識している。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 共有の空間を自由に過ごしている方が多い。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ③	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない 意向や意思表示が出来にくい方もいるため
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ③	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある ③ たまにある 4 ほとんどない 食事、おやつのみならず、業務の合間に利用者とは対談したりしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ③	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 職員のペースでの暮らしが多いが、入居者の方も同意の上での暮らし。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ④	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない 笑顔や笑い声が以前より多くなった。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ④	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない 意思表示出来にくい方が多いため。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (自己評価) ②	1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 支援する事で不安は減少している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ②	1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 支援する事で安心して暮らせている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ②	1 ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない 面会時などは挨拶だけでなくゆっくと話す機会を設け、家族さんの思いの把握に努めている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ④	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに ④ ほとんどない 家族さん以外はあまり来られない。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③ あまり増えていない 4 全くいない	回を重ねているが現実には増えていないと思うが、変わる事なくつながりが継続している。
98	職員は、活き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	気持ちにゆとりを持って働いている職員が増えた。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	直接不満、不平を聞く事はない。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	願いや思いをストレートに伝えて下さる方もいる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・職員が出勤時は「ただいま」と挨拶すると、元気よく「おかえり」と返して下さる方が増えてきている。
- ・介護する側、される側の判別をしないケアの実践を心掛けている。
- ・どんな方に対しても同じ目線、視点で接する様、心掛けている。
- ・どうしても気の合わない方、心を許されない方に対しても決してあきらめないケアの実践。
- ・いつも泳ぎたいと要望される方と一緒に海に行き、一緒にはしゃぎ、夏の1日をスタッフ利用者と共に楽しんだ。